2021年度第1回

ECCアーティスト美容専門学校 学校関係者評価 報告書

学校法人山口学園ECCアーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会は、2021年9月12日に「令和3年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告いたします。

2021年9月12日

学校法人山口学園
ECCアーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員（「ECCアーティスト専門学校 学校評価実施規定」選出区分）
【関連業界等関係者「同第12条第1項（1）」】

委員長

宮崎 裕輔 氏（株式会社クラフト・ワークス 人材開発部）欠席

【卒業生「第12条第1項（2）」】

鈴木 亜理紗 氏（ECCアーティスト美容専門学校卒業生）ZOOM

【保護者または地域関係者「第12条第1項（3）」】

中上 隆雄 氏（済美地域社会福祉協議会 会長）ZOOM

【その他校長が必要と認める者「第12条第1項（4）」】

大久保 紀子 氏（一般社団法人 ジャパン・ビューティメソッド協会 JBMA）ZOOM

川畑 勉 氏（資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部部長）ZOOM

貴治 康夫 氏（立命館高等学校）ZOOM

【同席者】

川添 雅英 ECCアーティスト美容アーティスト美容専門学校 学校長代理

東井 喜美 ECCアーティスト美容アーティスト美容専門学校 副校長

兼田 寛子 ECCアーティスト美容専門学校 進路指導課

北口 博一 ECCアーティスト美容専門学校 入試課

西村 宗博 ECCアーティスト美容専門学校 教務課

井上 久美 ECCアーティスト美容専門学校 専任教員

議事録

東井：ただいまより、ECC アーティスト美容専門学校 2021 年度第 1 回学校関係者評価委員会を開催いたします。

本日、司会進行に関しまして、本委員会の委員長でいらっしゃいます株式会社クラフワークス宮崎様のご都合により欠席となりますので、代理で司会進行を務めさせていただきます副校長の東井です。

どうぞよろしくお願いいたします。ではまず初めに、外部委員の皆様をご紹介します。その際に一言お言葉をいただければ幸いです。

一般社団法人ジャパンビューティメソッド協会 大久保様。

大久保様：ジャパンビューティメソッド検定協会の教育検定責任者をしております大久保典子と申します。今回はこのような場にお声をかけていただきましてありがとうございます。

まだ教育現場に携わってそれほど長くはないのですが、何か少しでも役に立てる意見が言えるようにと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

東井：ありがとうございます。資生堂プロフェッショナル株式会社川端様。

川端様：資生堂プロフェッショナル西日本第 1 グループの責任者をしております川端といいます。今年から参加ということで少しでもお役に立てればなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

東井：ありがとうございます、立命館高等学校 貴治様。

貴治様：皆様こんにちは。立命館高等学校の教員の貴治です。大阪で教員やった時、当時はアーティスト美容専門学校さんにお世話になりまして、どうもありがとうございました。いまは、高校の方も先週からオンライン授業が再開されて大変な状況が続いており、難しい毎日を過ごしています。今日はよろしくお願いいたします。

東井：よろしくお願いいたします。済美地域社会福祉協議会、中上様。

中上様：済美地域社会福祉協議会の中上です。よろしくお願いいたします。済美地域もコロナの影響で行事も全て中止になっており、アーティスト美容専門学校さんに協力していただくことができません。早く皆さん方と行事が再開できることをいっております。本日はよろしくお願いいたします。

東井：よろしくお願いいたします。ECC アーティスト美容専門学校卒業生 鈴木様ですが電波状態が悪く現在、映像が止まっております。後ほどお言葉をいただければと思います。

東井及び同席者：続きまして、学校側の同席者を紹介させていただきます。学校長代理、川添です。美容科 責任者 辻浦です。よろしくお願いいたします。入試課責任者 北口です。

北口と申しますよろしくお願いいたします。進路指導課責任者 兼田です。進路指導課の責任者をしております。兼田ですよろしくお願いいたします。教務課 専任教員 井上です。井上ですよろしくお願いいたします。教務課チーフ西村です。本日書記を務めさせていただきますよろしくお願いいたします。改めまして副校長 東井ですどうぞよろしくお願いいたします。

東井：では本日の議案についてお伝えいたします。まず学校長代理より、ECC アーティスト美容専門学校の組織について説明いたします。次に、学内で行いました自己評価について、事前に送付をさせていただきました報告書に基づき、各部署責任者より報告いたします。各項目ごとに委員の皆様のご質問、ご意見を頂戴してまいります。終了は 16 時を予定しております。今回オンラインでの実施となりますので、途中、聞き苦しい点等ございましたら、挙手にてお知らせください。円滑な議事進行に努めてまいりますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

では、学校長代理より説明をさせていただきます。

PPT を画面共有

川添：改めまして学校長代理の川添と申します。本日はお忙しい時期にも関わらずお集まりいただきまして本当にありがとうございます。コロナ禍でオンライン開催という形になっております。このコロナ禍が終われば状況に応じて対面とオンラインで以降も開催させていただきたい思います。今後もよろしく願いいたします。今から、先日学園内にて行われました学内での自己評価委員会の結果に関しまして、皆様に事前に報告書に基づきましてご報告し、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。自己評価委員会を実施した際には学内で課題を共有しておりますが、学校の中だけでは解決が困難な事柄もあり皆様方からのご意見をいただければと思っております。何卒よろしく願いいたします。

自己評価の報告書の説明の前に 2020 年度アーティスト美容専門学校運営を振り返りをご報告させていただきます。当校は 2 つの課程を運営しております。1 つは文化教養専門課程で、修業年限が 3 年間のトータル・ビューティ学科、トータルビューティースタylistコースとヘアメイクアーティストコースの 2 コースがあります。この両コースは美容師の国家試験通信課程も併修しており、美容師の国家試験を取得しながら、専門知識・技術としてメイク、ネイル、ファッションの学習をしていくコースになっております。それから、修業年限が 2 年間のアーティスト学科、こちらの方は 5 つのコースで運営しております。ビューティアドバイザーコース、それからネイリストコース、エステティシャンコース、ブライダルウェディングコース、特殊メイクアーティストコースです。最後に修業年限 1 年間のプロ専科です。プロ専科は、トップスタイリストコースと特殊造形クリエイターコース、この 2 つのコースで運営しております。プロ専科のコースは 2 年制課程を修了した学生がプラス 1 年、さらに専門的な勉強をするためのコースで、2 年生+1 年生という形で、さらに深く専門技術を学びます。文化教養課程は、1 年生から 3 年生の以上の三つの学科で運営させていただいております。

もう一つの課程は衛生専門課程となっており、美容科があります。こちらは美容師になるための修業年限 2 年間のコースとなります。美容師国家資格の合格を目指し、美容師を養成していきます。以上の 4 学科で 2020 年度運営しておりました。

これから学生数と進級率、卒業率とを報告いたします。2020 年度の在籍者数は 631 名でスタートしました。2019 年に比べますと、微減となっております。進級・卒業率は、一昨年が 83.1%だったのに対して 89.5%となり退学率は減少しました。卒業率に関しましても、96.5%から 95.6%と若干減少はしましたが、ほとんどの方が単位を修得して卒業をすることができております。就職内定率は希望者ベースで 100%となっております。就職希望外の学生は縁故就職、他の分野の専門学校への進学、留学生の帰国となっております。就職を希望する方は 100%全員就職が決まっております。

川添：では次に、自己評価報告書に基づいて各部署から報告をさせていただきます。お手元に自己評価報告書ございましたらご覧になってください。1 ページ目と 2 ページ目に訂正がありますので、ご覧になっていただきますようお願いいたします。では各部署担当者から説明をさせていただきたいと思っております。

東井：それでは、7 月 30 日に実施いたしました自己評価 10 項目について、主に課題と解決方法を、各部署責任者、担当者より報告申し上げます。お手元に資料の方をご用意ください。基準 1 につきましては総括といたしまして、後ほど報告いたしますので、基準 3 より始めさせていただきたいと思っております。12 ページをあけていただけますでしょうか？基準 3、教育活動基準 4、学習成果に関しまして、辻浦、兼田より報告いたします。

辻浦：基準 3 の内容について説明させていただきたいと思っております。13 ページ、3-8-1 から説明させていただきたいと思っております。基本理念に沿った教育課程の編成方針に実施方針を定めているかという項目ですが、ウの課題のところを課題と解決方法のところをご確認ください。これまで教育課程編成委員会は、学科単位でコースをまたいで実施しており、具体的な内容を討議するのが困難な状況でした。2020 年度より、トータル・ビューティ学科を除きまして、各コースでこの委員会を開催するようになりました。さらに 2021 年度は全てのコースで教育課程編成委員会を開催しており、より具体的に教育課程を考えらえるように取り組んでおります。また学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているかという

項目に関しましては、コースごとにディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを設定しまして、これに基づいてカリキュラム編成しておりますが、学生に徹底する機会が少ないというのが大きな課題になっており、2020年度は動画を作成して配信するというようなことを実施しております。この1年間、オンデマンド技術は学内で頻度は高くなっており、オンライン等を通じてさらに周知徹底できるように考えております。その次の3-9-1、3-9-2につきましては、先ほど同様に教育課程編成委員会をコース単独でそれぞれで実施することで解決を図っております。その下3-9-3、キャリア教育を実施しているかという項目になります。企業提携、そしてインターンシップということでこういったところを非常に重視して取り組んできておりますが、コース間でばらつきがあり、企業様との連携をさらに強化して徹底していくことを現在進めております。続きまして3-9-4になります。事業評価を実施しているかという点ですが、学生アンケートを従来は年に2回取得していたものを年間4回ということで回数を増加し、学生の意見を聞いております。課題は以前から問題になっておりましたが学生へのフィードバックが不十分な点で、主要項目のところを絞り込んで回答を実施していきたいというふうに考えております。また、教員との結果の共有の強化が必要ですが、方法等、委員の皆様方にもぜひご意見、アドバイス等いただけたらというふうに考えております。続きまして3-10のところは2つ飛ばしまして、17ページになります。3-11-1をご確認ください。資格、免許の大項目になります。検定合格に関しまして、その重要検定というのを絞り込むことによって徹底した指導と対策を講じております。結果は非常に功を奏しまして、レベルアップが図れているのがヘアメイクアーティストコース、ブライダルコースになります。基準3の最初、12ページの右側にコンテストと検定結果を記載しておりますのでご覧いただければと思います。中段にJNEC ネイリスト技能検定1級というのがございます。合格率が94.4%となっており、全国平均30%~40%台の非常に難しい検定試験ではありますが、高い結果を残しております。そして下から二つ目のアソシエイトブライダルコーディネーター技能検定は国家資格であります。ブライダルコースの目標検定で合格率は100%という結果になりました。18ページの大項目になりますけれども、3-12-2 教員の資質向上への取り組みのところになります。魅力ある授業を提供するために指導力向上をさらに強化する必要があると考えています。外部研修の推進を促進する予定でしたが、コロナ禍の状況もありまして、停滞状況となっております。教員にとって必要な専門分野の研修は、時間的な制約もあり難いのですが、受講しやすい仕組みを構築する必要があり、この点に関しましてぜひ委員の皆様方にご意見、アドバイスいただけたらと思います。私の方からは以上になります。

当該

兼田：続きまして進路指導課から、基準4をご説明をさせていただきます19ページを見ていただけますでしょうか。まず第1項目の総括です。就職内定率については19年度までは卒業までに100%達成を目標にしてきましたが、20年度よりプロのメイクアップアーティストにアシスタントに就くという「アーティストアシスタントプロジェクト」スタートさせました。このプロジェクトの学生たちは、一般企業は受験せず就活も一切行っておりませんで、内定を全く獲得していない状態で卒業し、アシスタントにつくこととなります。その際は無給の場合もあり、雇用関係でも不明確となりますので、2020年度からは卒業までに100%達成は困難ということから卒業後できるだけ早く、100%達成目標をするということに変更しております。続きまして20ページの小項目の「就職率の向上が図られているか」の項目です。学生本人の就職希望先への支援を原則としつつ、習得した専門技術や知識を生かせる業界への就職先を指導することを前提に考えています。また希望だけでなく、能力と適性を考慮した指導を行っていく方針です。これは早期の退職を防止するためです。ここでの課題は、その際に進路指導課として考え方や、部署や担任の先生方との考え方を共有していかないと混乱をまねき、学生の信頼を損ねることになる可能性もあるので定期的に教務課、担任の先生で会議を持って学生の指導について統一を図るように努力をしております。続いて22ページになります。「卒業生の社会的評価」の項目ですが、教育成果の証明と在校生のモチベーションアップに繋がるために把握しておきたいと考えております。進路指導課としては年1回、就職先の企業に対して、卒業生アンケートを送付して調査しております。課題として卒業生個人としっかり繋がるシステムが今のところ当校では整っていませんので、システム的に卒業後の動向を調査できる体制作りが必要だと思っています。交流会の参加も非常に少ない状況ですので、改善を図る目的でOBプロジェクトを発足しましたが、まだミーティングを数回行ったのみで効果がでていません。卒業生にとって魅力ある情報とはどのようなものなのか、あるいはそれを発信する有効な方法はないのか等が課題であり、よろしければ皆様からもご意見をお伺いしたいところであります。私からの説明は以上になります。

東井：では基準3、基準4に関しまして、委員の皆様のご質問ご意見を賜りたいと思います。先ほど辻

浦らの方からもありましたが特に本校の課題である授業評価やアンケート結果の学習成果の共有とフィードバック方法や教職員の研修制度、または卒業生とのつながり等についてご意見アドバイスを頂戴できれば幸いです。では、お1人ずつお願いしたいと思います。貴治様、最初お願いしてもよろしいでしょうか？

貴治様：まずちょっと質問からよろしいでしょうか。12 ページに 20 年度の検定実績コンテスト実績がござりますが、この中で最重要検定ある最重要コンテストはどれになるのかを教えてくださいなと思います。

辻浦：はい。コースによって重要検定というのがそれぞれ違っていますが、ネイルコースであれば JNEC のネイリスト技能検定 1 級が重要になります。そしてメイク系の検定になりますと JBMA さまのメイクアップ技能検定のプロフェッショナルカテゴリーというレベルの高いものを目指しております。またブライダルコースではアソシエイトブライダルコーディネーターの技能検定になります。なお、美容に関しましては 3 年制では City & Guild のレベル 3 を目指しますが、全国でも数校しか取得していないくらい高い技術が要求される資格になります。2 年間で美容師国家試験取得を目指しますが、最終的にはこちらを目指していきます。

貴治様：わかりました。さらに質問よろしいでしょうか？ 19 ページのとこなんですけども、就職・進学以外の進路希望が 11 名と記載されていましたが、具体的に就職意外の進路希望とはどうなっているのか、わかる範囲で結構ですので、と教えていただければと思います。

兼田：はい。就職以外では本来は留学や大学等への進学となりますが、残念ながら在学中のコースの業界に興味なくなってしまうのアルバイトや、コロナの影響でいけないものの韓国が好きな学生で、留学をしたいがすぐには行けないのでこの 1 年間は留学のためのお金を貯めるという学生が 11 名いております。

貴治様：よくわかりました。コロナの影響で検定や就職の状況は、ここ二、三年、難しい状況が続いていると思います。その中で教職員の方々は頑張っておられるということがよくわかりました。それから、教職員の研修制度や授業評価のフィードバックの仕方では何かアイデアがあればという質問だったんですけども、私の学校でも教職員の授業の評価は難しいところがあります。例えば授業アンケートが年 4 回とられているということで、それで十分だと思うんですけども、例えばアンケートの結果が良くなっていった場合は、例えば公立学校の場合だったら給与体系に影響してくることがあるんです。判定ランクがあり、もし高くなれば給与が上がるなどの具体的に目に見えるようなものがあるということが（本当の目的になるのかどうかはわかりませんが）現実問題としてそういったことで反映できるような仕組みがあったらどうかというふうに思います。それから当校の教職員の研修制度なんですけれども、授業期間中は本当に難しいですね。学校でもいくつか研修はあるんですけども、平日の間のその時間をやりくりして研修を受けに行くことは、教員同士でやりくりしていかないといけませんので、なかなか難しいなと思います。研修でも自主的な研修もあれば必ず行かなければいけない研修がありますが、教職員が研修を受けやすくする何かアイデアを資料を送っていただいてからずっと考えてるところなんですけども、なかなか難しいというのが正直なところです。この話し合いの後で何かアイデア浮かんだらまたお話をさせていただきたいと思います。

辻浦：ありがとうございます。

東井：ありがとうございます。では続きまして川畑様お願いできますでしょうか？

川畑様：はい。私からは事前の質問項目の中で、卒業生と持続的な関係の構築方法を、今の発表も踏まえて御意見できることがあればということでお伝えさせていただきます。まず一つの案としてなんですけども接客コンテスト等のときに卒業生の方に審査員として参加をいただいて評価をもらうという形での関係の構築、そしてその方々にデモンストレーション等々をしていただいて、例えばスキンケアやメイクなど、部門別に一連の流れの実践をもらう。このような部分は学生にとってもマニュアルではない流れの勉強になるかと思います。このようにすれば卒業生と関係が作れるのではないかと考えております。そして、その際に卒業して半年後の卒業生、1 年後の卒業生、3 年後の卒業生それぞれに現状はどういう状態なのか

の現状報告をリアルな声として学生の方に話していただくと、非常にモチベーションも上がるのかなと思います。卒業するとき事前にお約束をしておいて、持続的に連絡をとって進めていただけたらと思います。卒業生からの定期的なヒアリングを行い、カリキュラムに反映することが大事だと思います。そして三つ目としては、メーカー等に就職された場合、定期的にそのメーカーの商品のプレゼンテーションの時間をとってもらい、学生向けにさせていただいてはどうでしょうか。実際に話法を学ぶ機会を学生は得られ、そのメーカーに入った卒業生と方々と定期的にコミュニケーションを図れば双方にとってメリットがあるかなと事前に考えさせていただきました。以上となります。

兼田：ありがとうございます。審査の際のデモや、それからメーカーの商品のプレゼンなどは全然思いつかなかった部分ですので、とても参考になります。ありがとうございます。

東井：それでは大久保様、お願いできますでしょうか？

大久保様：よろしく申し上げます。すこし質問なんですけれども、3-9-4 のところに授業オブザーブを実施してというのがありますが、この授業オブザーブというのはどういったものなんでしょうか？

辻浦：授業オブザーブに関しましては、教員もしくは教務のスタッフが、授業をしている科目の見学に入ることになります。そして授業がきちと遂行されているか、問題点がないか、逆にいいところはどこかということを確認させていただきまして、それを担当の教員、コースの関連教員にフィードバックをして共有し、授業の内容を高めていこうという制度になります。

大久保様：わかりました。何か評価項目みたいなものがあって、それに照らし合わせて授業を見ていくシステムなんですか。

辻浦：はい。チェックシートというものがあ、その項目にしたがって確認をしています。評価ということで、直接金額面ということはないのですが、データとしては持つておきまして、いずれは給与への反映にと意識しております。

大久保：なるほど。授業の精度を高めていくという意味ではとても良いシステムだと思います。また先生がたもすごく緊張感を持って授業に取り組めるという意味でもいいシステムだなと思います。さらにフィードバックがきちんとされるってことは改善も常にできていきますので、このようなシステムがきちんとあるということはずごくいいなと思いました。ありがとうございます。数年前までは本校でも、いつどの教員が授業に入ってもいいというような体制、風土ができていましたが、ここ数年そこが曖昧になってきています。また昔のように戻さないといけないと思いました。課題としていただきました先生がたの外部研修の促進ということですが、20年度はコロナ禍の中で停滞ということを記載されていますが、それ以前には具体的にはどのような研修をされてたんですか。

辻浦：コースが様々な協会に所属していることが多く、ネイルでしたらネイルリスト協会、美容科でしたら美容の組合みたいなのがありますので、そのような協会様、組合様が主催する研修等に参加させていただいております。ただ、教員一人一人、技術も違いますし伸ばしたいところも違いますので、本当に教員にとって、レベルアップが図れる研修は何なのかというところを検討して参加できるような、そんな体制にしていきたいと考えております。

大久保：ありがとうございます。私も今回 JBMA として出席しておりますけれども一方で美容学校の副校長もしておりますので同じような課題をお持ちなんだなと思って質問をさせていただきました先生のスキルを高めていくことが学生さんへの魅力ある、満足できる授業の提供に結びついていくと思いますので、研修の再開に向けてコロナもなるべく早く収束してくれることを願って、進められればとてもいいと感じました。ありがとうございます。引き続きご指導のほどお願いいたします。よろしく申し上げます。

東井：ありがとうございます。それでは中上様お願いできますでしょうか？

中上様：授業や研修に関しては特にアイディアはありません。非常に優秀な生徒さんが多いです。感想ですがよろしいでしょうか？

東井：ありがとうございます。それでは、鈴木様、大丈夫ですか。

鈴木様：先ほどは失礼いたしました。トータルコースを卒業して今4年目、美容師して4年目になります。学生時はオープンキャンパス等に関わらせていただいております。卒業生との繋がりですが、オープンキャンパスで参加している学生はお金目的の人は少なく、学校を良くしたい、好きだという気持ちの強い方が多いと思います。ですから卒業生と繋がりオープンキャンパスに積極的に参加している学生さん（卒業生）でしたら積極的に様々な行動をしてくれるのではないかと思います。あとは先ほど川畑さんおっしゃっていたみたいに企業からOGセミナーに来ていただき、学生さんに響く言葉をかけることができれば、就業年数によっても伝える内容が異なり、キャリア別の先輩の話は在校生にとっても感じとりやすいと思います。あとは社会人と立場で言うと、ここ数年はサロンにとってはリクルートが厳しいので、お話しするそのついでにリクルートに繋がれるような機会があれば卒業生としても積極的に取り組めるのではないかと思います。

兼田：鈴木さんの成長を喜んでいます。鈴木さんが業界で立派に過ごしていることが一番の例だと思うので情報をしっかりと把握していきたいです。また鈴木さんを中心に後進の指導にあたっていただけるように、提言いただいたことを実行し繋がりを持ちたいと思います。ありがとうございますありがとうございます。

東井：ありがとうございました。それでは次に進ませていただきます。基準5、学生支援基準6、教育環境に関しまして、兼田、井上より報告いたします。

兼田：私の方からは就職活動支援に特化してお話をさせていただきます。23ページになります。2020年度に最も就職に対して影響したのはコロナ禍になります。そしてコロナ禍によって最も変化したのがあります。面接を含む就職活動のオンライン化です。リモート面接がデフォルトになってきておりますので、いち早くリモート面接への対応が必要と考えて、2020年度に体制を検討し、2021年度より学内でオンライン面接ルームを確保しました。スタンドやライトの光源に関しましても道具を揃えて、面接に対応いたしました。設備面以外でもリモート面接のマニュアルも進路指導課で作成し、指導しております。また使用に関しましてはいつでもどこからでもそのルームの予約をできるように、リザーブによる予約制度を開始しております。課題としては、通常授業だけでは学生のレベルに応じた指導が難しいことがあります。グループ指導と個別指導で対応はしておりますが、時間と場所の確保などで長年の課題となっております。私の方からは以上です。

井上：では私からは、学生の対応と保護者についてお伝えします。17ページと26ページになります。17-1のところを見ていただきたいです。課題と解決方法ですが、2020年度から魅力のある授業を提供することにより、欠席の抑制、退学の抑制を図る方針としております。その結果、改善の傾向が見られております。次なんですけども、27ページをよろしく願います。27ページの学生相談の項目ですが、5-18-1の課題と解決法をご覧ください。教員として学生対応における考え方や力の差が引き続き残っている状況が現実です。対策として主任クラスの教員を集めての定期的な会合などを設定しております。また定例の主任ミーティング、またコース共有ミーティングなどで該当コースごとに学生の情報を共有しております。また学生相談室のカウンセラーの先生による研修会も行っております。では次に32ページをお願いいたします。5-20、保護者との連携という項目でございます。今年度は入学式が中止になり、また保護者会がオンラインになるなど、今まで通りの連携ができなくなりました。ただ保護者会はオンラインと電話で実施しまして参加率は65.5%となりました。学校に関心がない保護者の方との連携方法が課題となっております。電話連絡はしておりますが、それでも繋がらない方もいらっしゃると思います。どのように対応するべきかご意見をお聞きたいです。よろしく願います。次にP33ページになります。5-21-1小項目の、「卒業生の支援体制を整備しているか」の課題と解決方法として校友会を運営しておりますが、始まったところで認知が低いので、参加者が少ないのが現状です。卒業生の職場は土日勤務が多いので、曜日の設定を含めて改善が必要と考えております。2020年度はコロナ禍で開催できませんでし

たので、今後はさらなる対応予定をしております。以上です。

東井：それでは基準 5、基準 6 に関しまして、委員の皆様よりご質問ご意見を頂戴できればと思います。こちらの項目では、特に学校との関係性構築に関心の低い保護者様との連携と、コロナ禍での学外教育のあり方を、地域行事等々も含めまして課題となっておりますので、ご意見を頂戴できれば幸いです。では大久保様からお願いできますでしょうか？

大久保様：はい。まず関心の低い保護者様との連携というのは本当に難しく、私共もなんとかも解決策がないかと思っているところです。他にどなたかご意見をくださいというような同じような立場でございます。逆にその保護者会を設定されているというのが素晴らしいなと思って今聞いておりました。この報告書にもそのように記載がありましたので、少なくとも関心をくださる保護者の方々に対して、少しでも良くしていく方策をできるところからやっていくべきだと思います。引き続きコロナもありますが、オンラインでもできる範囲でおこなっていくことを期待したいと思っております。私どもも保護者会が興味深いなと思って聞いておりましたが、これはどういう形で実施されるものなんでしょうか。コースごととか分離して開催しているのでしょうか？

井上：私からお話します。保護者会に関しましては対面が基本だったんですけども、コロナ禍がありまして、オンラインもしくはお電話でお話させていただきました。また前期に実施します保護者会はコースごとというより、クラス単位で実施しております。保護者様と担任の二者面談になります。

大久保様：なるほど。2 者面談を実施されてるんですね。

東井：後期になりますと、就職前年次の保護者の方に対しまして、進路を中心に、コースごとに説明会を実施させていただいております。こちらも基本は対面をしておりますが、2020 年度はオンラインで実施させていただきました。

大久保様：わかりましたすぐ密に関係を築いておられるのだなということがわかりました。素晴らしい取り組みだと思います。うちも導入したいなと思ったところでございます。また校友会ですが、リアルで集まるという機会というのも、仕事の関係上皆様土日がお休みではなかったり、お休みが違ったりすると難しいかと思えます。当校でも、同じように校友会を本格的にやっという取り組みを始めたのですが、オンラインで繋がって、例えば卒業生のフォトコンテストを実施してみるとか、みんなが楽しく参加できるような場をオンライン上に設定して、少しでも集まる関心を持つというような機会を設けるということをスタートさせました。あと卒業生の方にゲストで YouTube を使って出ていただいて、役に立つ情報を披露してもらうなどの取り組みをしています。まだまだスタートしたばかりで、大きな規模のものにはなっていませんが有益な情報共有の場になるように進めているところです。お役に立てばと思います。以上です。

東井：ありがとうございます。フォトコンテストなどをオンラインですというの新しい取り組み、発想だと思いますので、参考にさせていただきたいと思えます。それでは貴治様お願いできますでしょうか？

貴治様：まず就職進路のところの話になりましたがその筆記対策授業の中でレベルに格差があるという、その対策なんですけども、高等学校のことはそのまま参考になるかどうかわかりませんが、お話しさせていただきます。一つは、生徒、高校でよくやるのは生徒が生徒を教える。クラスの中でよくできる子が、いろいろフォローしながら教える。意外と先生の話よりも、同年齢同士の友達関係だったらずっと頭に入ってきて、学習効果が高まるということがありました。それともう一つは、能力別にクラス編成をして、同時進行的に補習、補講をすることもできます。高校の場合もそれで進めています。よくできる子を集めて、少数精鋭的にものすごく難しいことをさらにレベルアップしつつ、平均的なレベル授業に追いつかないような生徒を集めて補習をするかどちらかの方法でレベルを平均化するよということにはよくしております。それから保護者連携ですが、高校でも様々な要因から、なかなか難しいです。全く子供さんに関心のない保護者の方も結構な数がいらっしゃいます。しかも専門学校にあがる年齢になると、ますますも親御さんの中には、「親が言っても何もしない」と言われる方も多いと思えます。意識の弱い保護者対応ですが、必ずしもお父さんお母さんだけではなく、範囲を広げたことがあります。その生徒さんが一番話を聞ける人、私の経験ではアル

バイト先のその人の話だったらよく聞くという生徒がいたので、その人に間に入ってもらって、話をしたこともあります。それからあとは家庭訪問です。これは専門学校ではどうされるかわかりませんが、市中の小学校、中学校、高等学校でも家庭訪問というのは頻繁にありました。保護者から学校に出向いてくれないのであれば、こちらから押しかけるとい言葉は悪くなりますが行って行っていました。家庭訪問しにくい家庭もありますので、家以外のところで話したこともあります。教育的にいいかどうかはよくわかりませんが、喫茶店で待ち合わせをしまして、コーヒーを飲みながらお父さんとお母さんと話させていただいたこともあります。それで空気がなごんだり関係が良くなって、今までこちらがわからなかったようなこともいろいろと教えていただくこともできたことがありました。とにかく押したり引いたり、あの手この手ととにかくいろんなことを試みました。参考になるかどうかわかりませんが、私の経験です。以上です。

東井：ありがとうございます。やはり対面でお会いするってことが大事なのかなと思います。ありがとうございました。中上様はいかがでしょうか？地域の方とのボランティア活動もなかなか思うようにできず、何かご協力できることや、コロナ禍で以前と違う方法とかあればご提言をいただきたいと思います。

中上様：そうですね報告を聞いてると、このコロナ禍で行事が地域でも行っておらず、つながれない状態です。だから学校の先生がたの苦労と同じだと思います。たいした意見はありませんけども、以上です。ありがとうございました。

東井：それでは鈴木様。お願いできますか。

鈴木：同窓会・校友会の存在を私も知らなかったの、アナウンスを強化してもらいたいです。Instagramなどは美容業界であればみんな知ってると思いますので、お知らせなどを発信してもらおうと、もっと繋がれると思います。あとは、職場は土日の出勤はすごい多いので、そういう面ではイベントの開催日は平日の方がありがたいです。また保護者会の方法は、LINEの公式を使って配信を積極的にし、例えば言いにくい話がありそうであればアンケートサイトに飛ぶような形にして、そこから保護者の方にアンケートをもらうであったりとか、何か言葉をもらうことができるかもしれません。対面では言いにくい話も、文面になることで伝えやすいことがあるかもしれません。対策をしていただいてもいいのかな、と思いました。以上です。

東井：ありがとうございます。やはりInstagramそれからLINE等ですね。業界だけでなく、社会的にも主流になっており、使われる機会が多いとは聞いております。アプリの活用を考えていきたいと思っております。それでは川端様お願いできますでしょうか？

川畑様：保護者連携に関することと学外教育に関して、社内で何人かにヒアリングをしてみました。助言やアドバイスできるような良い意見が出てこなかったのこちらに関しては、今皆さんが言っていたところが非常に勉強になるなと思ったところがあります。

東井：ありがとうございました。

それでは、一旦休憩を挟ませていただきます。5分後にもう一度画面の方にお戻りいただけますでしょうか？よろしく願いいたします。

5分休憩

東井：それでは皆様お戻りいただいておりますので再開していきたいと思っております。よろしく願いいたします。38ページ、基準7のところを開けていただけますでしょうか？こちら学生募集と受け入れについて、北口より報告を申し上げます。

北口：よろしく願いいたします。先ほど卒業生の鈴木さんからオープンキャンパスの話が出て参りました。学生募集としての関わりは、ECCに問い合わせさせていただいてから入学までのサポートをしております。本日は大項目の総括の上の三つのところをお伝えさせていただきます。まず本校のことを認知してもらい、本校の良さを知ってもらうところから始まります。学校のことを知ってもらうきっかけは、昨今ではWebサイト、

ホームページだけではなく、Instagram 等の様々な方法で高校生は学校のことを知ってくれています。従いまして、その面での強化を図っております。その後は電話や対面営業の手法も使いながら学校の情報伝達しております。出願後は入学選考、またその後も入学までケアを継続的にこなしております。なお、特記事項で記載させていただいていることの補足となりますが、入学前のケアは昨年度より実施しておりますが、高校生対象のアプリで学校生活情報を送っており、非常に好評となっております。発信内容は、実際の授業のことや、セミナー、また教育システムなどを発信しております。またこの高校生アプリは個別のメッセージ機能がついていますので、電話で相談だけではなく、メッセージを通じて相談や質問をしていただくことができます。問い合わせがあった事項に関しましてはすぐに解決し、入学までサポートさせていただいている状況となっております。米印二つ目の入試前教育に関して説明させていただきます。AO エントリー後の入試面接の前に本校のスタッフと個別に自己 PR 指導を入試対策として実施しております。遠方の方にも参加をしていただきたいため、Zoom を使用して 1 人 30 分実施しております。米印四つ目の対応に関してですが、2020 年は、コロナ感染が広まり 3 月から 4 月に関しましてはオープンキャンパスの開催を控えておりました。進学先を具体的に決定する 5 月から 6 月になりまして感染状況の落ち着きと、ECC の詳しい説明を聞きたいという要望が増えてきたこともあり、体験授業は行わず説明会のみ実施という形式で運営させていただきました。7 月以降は徐々に体験授業などを復活させ、当校のことを詳細に知っていただけるオープンキャンパスに戻していきました。「感染対策を実施しながら」と記載させていただいている通り、来校者もそうですが講師、在校生、運営スタッフには、マスク着用、検温・消毒を徹底し、また教室内の換気や密回避のために人数制限、参加者のソーシャルディスタンスをとったうえで実施いたしました。では今から細かくご説明させていただきます。7-25-1 の「学生募集は適切に行われているか」の項目をご確認ください。課題と解決方法のところをご説明させていただきます。先ほど申し上げましたように感染症対策を行ったうえでオープンキャンパスを実施させていただいておりましたが、オープンキャンパスでは一度に 30 人から多いときは 70 人ぐらい一斉にお越しになられます。多人数の場所に不安のある方には個別で説明会をオンラインで実施させていただきました。集客数の獲得という点では課題を残していた状況になっていますが、一対一でしっかりと個別で対応させていただいたので、高校生の満足度はアップしたと思っております。次のページの 7-26 の「入学選考」のところを見ていただけますでしょうか。面接重視の入試になっておまして、面接官による判定基準に誤差がでないように統一しております。さらなる基準の統一が課題になっておりますので皆様の意見をお聞きしたいと思っております。また別の問題になりますが、点数化できる入試制度ができないかというところを模索しております。美容関係の知識や技術は高校で学習している項目ではありませんので、入試科目としては技術、知識を問うことは適切ではないとも考えており、この項目でも皆さまの意見をここで聞きさせていただきたいと思っております。最後に 7-27 の「学納金」のところを見てください。各コース授業料は変更がなく特に大きい問題はございません。各コースの教材費と経費に関してですが、コースによって必要な物品や教材は異なってきますので、事前に募集要項でしっかり記載させていただいております。入学辞退の時期によって、返金の有無が変わってきますので、今後も正確に伝えていく必要があると考えております。聞いた、聞いていないと問題になるケースか、例年一件程度ありますので、リスト化や迅速な対応、そして適切な説明を徹底している状況です。私からは以上です。

東井：それでは基準 7 に関しまして、ご質問また入試制度に関してご提言等をいただけますと幸いです。それでは、大久保様、お願いできますでしょうか？

大久保様：入試は面接と筆記試験があるということでしょうか？

北口：入試の面接だけになっております。筆記試験は特待生試験の中にあり、学費減免を希望する学生が任意で受験する試験になっています。

大久保様：なるほど。そうしますと面接で推し量る項目をどのように定めていくかと点数の付け方の統一があったほうがいい良いわけですね。

北口：はい。その通りです。

大久保様：学校様で、「こういう学生に来てほしい」という項目をあげて、それに対する質問と模範解答

を一度整理し、それに応じて点数の配分を決めていくっていう方法はいかがでしょうか。面接だけで点数化をしようとすると非常に難しく、どうしてもそういう方向になるのかなと思います。

北口：ありがとうございます。どうしても面接ですと面接官の印象によってぶれが出てくるのが問題ですので、誰が質問しても、かえってきた答えによって判定する基準を設けることで、ぶれを少なくすることができるのではないかと思います。ありがとうございます。。

東井：では川端様お願いできますでしょうか？

川畑様：はい。自分も非常に難しい問題だと思います。今の久保様が言っていた意見が、私も非常にいいと思います。学校が欲しい人物の項目に対して、どういう答えが求められるかという基準を作るのが妥当だと思います。ありがとうございます。

東井：ありがとうございます。貴治様、お願いできますでしょうか？

貴治様：入試なんですけども、例えば高校入試の場合は事前準備として面接試験の前に全教職員で講習会がありまして、全員で客観性を担保するために基準を統一しておりました。教職員の中で生徒役と先生役決めまして、お互いに模擬面接という形式で行い、こういう場合はこれぐらいの点でと、具体的に基準を決めてやっておりました。あとは入試のときに活用したのは作文です。小論文や作文の試験は、あらかじめテーマを設定して受験する生徒に与えておきます。それを当日に持ってこさせて評価しておりました。それからあと説明会では教職員ばかりではなく、さまざまな制度を在校生がアピールすれば、受験生と在学生の間の距離も縮まり、親しみを持って、より学校に関心を持つ機会になるのかなというふうに思いました。以上です。

北口：ありがとうございます。

東井：続きまして鈴木様、お願いできますでしょうか？

鈴木様。オープンキャンパスしてのことについてはコロナ禍でできない期間があったと思いますが、私は Instagram のプロフィールに「ECC 卒業」のように書いてるので会ったこともない高校生から、オープンキャンパスがないので、そのコースについてどう感じるのか、雰囲気とかを教えてくださいという質問が一件だけではなくて、何件かありました。私の知っている情報は卒業する前までですので、そういう面でも、今の学校の情報を共有してもらったと思います。そうすると試験はどういうふうに変ってますよとか、コースはどういうふうに変ってますよということを卒業生が高校生にメッセージを返信することができます。オープンキャンパスを担当していた卒業生ならできると思います。また instalive などでも生配信は、距離的に学校見学に行けない高校生にとっても雰囲気がつかみやすいと思いますのですごくいいと思います。最後の面接に関しては、せっかく入学してもやめてしまうことになるとすごくもったいないので、先ほど出てたようになぜこの学校を選んだのか、何をしたいのか、どうしたいのかを自分の将来に繋げて考えることがすごく大事なのかなと思いました。以上です。ありがとうございます。

東井：ありがとうございました。それでは続きまして、基準 8、基準 9、基準 10 を学校長代理の川添より報告申し上げます。

川添：では基準 8、9、10 を川添から簡潔に説明させていただきます。まず基準 8 の「財務」に関してのご報告になります。大項目に記載されております通り収支のバランスに関しては問題なく推移しております。詳しい説明がそれぞれ中、小項目ございますので、ご覧になってください。続きまして 49 ページにあります基準 9「法令等の遵守」に移ります。学校の運営に関する告示基準等に関しましては、法令に則りまして間違いなく運営させていただいております。また、自己評価委員会、学校関係者評価委員会をそれぞれ開催し、議事録はホームページを通して公開しております。今後、第三者評価委員会の実施を検討しているところでございます。続きまして基準 10 の「社会貢献地域貢献」に関してご説明させていただ

きます。当校は本日お越しいただいております中上様を中心とした地域の方々と以前より連携させていただいております。山口学園としては地域貢献に関する部署があり、コロナ以前は地域清掃活動やキャンドルナイトなどの地域行事に参加させていただいております。ただ 2020 年度に関しましては先ほどからの説明にあります通り、ほとんどの地域行事、活動が中止となりました。この状況において、人と人の触れ合い特に地域社会との接触の仕方のあり方を構築しなければならないと感じております。山口学園が持っております「社会貢献センター」を通じて、地域の方との交流を深めていきたいと考えております。基準 8、9、10 に関しましては報告のみという形にさせていただきます。以上になります。

東井：それでは基準 1「教育理念、目的、育成人材像」、基準 2「学校運営」を川添のら報告させていただきます。

川添：引き続き私からご報告をさせていただきます。まず基準 1、「教育理念目的育成事業」に関する報告となります。人材育成に関しましては社会のニーズの情報収集のために教育課程編成委員会を各コースごとに実施し、各業界の委員の方から、本当に今現在必要なスキルとはなにか、どういった人材が必要か、最終的に育成するためにどういったカリキュラムが必要なのかというところをお聞きし、学校内のコースデザイン会議で、科目化もしくはシラバスへの導入しております。それから特色ある教育活動という項目ですが、「現場主義」をとっており、学校の中だけではなく学外でも実践することができるように、多くのインターンシップを準備しております。ただ昨年は何度か申し上げております通りコロナ禍によりかなりの量のインターンシップが不成立となっております。今後、もし同様のことがあった場合はインターンシップに行かせることができない中で、どのように特色のある活動を行うべきかが今後の課題という形になってきております。続きまして基準 2 に移り、学校運営に関してご説明させていただきたいと思えます。運営方針に関しましては、国際外語専門学校、コンピューター専門学校、そしてアーティスト美容専門学校の ECC の 3 専門学校が包括される山口学園において、学園の方針が年度初めに決定されます。その際は、全職員に運営方針という形で発表しております。同時期に学園運営方針に基づき、学校運営方針を全教職員に共有しております。課題としては学校運営方針において振り返りが不十分なところだと感じております。10 ページに移りまして意思決定システムのところをご覧いただければと思います。意思決定システムに関しましては、目的別に会議を定期的実施しております。情報共有やそれぞれ議題に則って参加者や内容を選定し運営するようにしましたが、今後はさらに機能的に行っていきたいと考えております。基準 1 及び基準 2 に関しましての説明を終了させていただきます。

東井：では 2 項目に関しまして、何かご質問ご意見等ございましたら挙手にてお知らせいただけますでしょうか？ご質問等はないでしょうか？では以上をもちましてですね本日の委員会でのご報告ご提言は全て終了となります。長時間にわたりまして貴重なご意見たくさん頂戴し、誠にありがとうございました。頂戴いたしましたご意見は今後の学校運営に反映し、学修成果主義に基づいて教育の提供に努めてまいりたいと思えます。最後に学校長代理よりご挨拶させていただきます。

川添：委員の皆さま、本日は長時間にわたりまして貴重なご意見を賜り本当にありがとうございました。も、自己評価委員会の中では解決が困難な項目お聞きしましたが、皆様方のご意見ですぐにでも反映できそうなものも多く、早速学内で検討させていただきます。本日もご意見いただきました項目に関しましては、次回の第 2 回学校関係者評価委員会で進捗をご報告させていただきたいと思っております。次回の学校関係者評価委員会ですが、来年 2022 年の 2 月の土曜日を予定していましたが、本日の議題でもありました通り、美容業界に従事しておられる方が土曜日は参加調整が難しいとの要望がありましたので 2 月中旬に平日夕方開催とさせていただく予定です。日程調整を改めてさせていただきます。何卒よろしくお願いたします。では本日は本当にありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

東井：以上をもちまして、ECC アーティスト美容専門学校 2021 年度第 1 回学校関係者評価委員会を閉会とさせていただきます。ではどうぞご退室ください。ありがとうございました。

<了>